

令和7年度 こども園等の自己評価結果 矢倉こども園

こども園における学校評価については、幼稚園設置基準（平成14年4月施行）において”自己評価の実施とその結果の公表に努めること”と明記されています。よって本園はこれに基づき自己評価について公表します。

評価日 1月27日 対象者 21名

| 自己評価結果 | 評価基準      |
|--------|-----------|
| A      | よくできた     |
| B      | だいたいできた   |
| C      | あまりできなかった |
| D      | できなかった    |

| 自己評価項目             | 結果 | 取り組み状況  |
|--------------------|----|---|
| 教育課程               | B  | 園内研修や行事の折に目指すこども像や保育の方向性について職員間で話し合うことで職員が一丸となって保育をすすめられた。一方で教育過程は期に分かれて作成しているが、区切りが長すぎるため活用しにくい状況である。                      |
| 保護者との連携            | A  | 保育ドキュメンテーションやHOICT（ICTシステム）、保護者と対話の中でどんな働きかけをし、どんな願いをもって関わったか成長やその過程を丁寧に伝えることを意識した。   |
| 学級経営               | A  | 保育内容・こどもの姿・保護者関係等日々相談し連携を取りながら進めることができた。また、クラス内外の様々な職員とこどもの見取について話すことで関わり方を見直すことができた。                                       |
| 人権同和教育と特別支援教育の理解推進 | B  | こどもの人権を大切に関わろうとしているが、認識や感覚に温度差があり、質の高い保育の提供につながらない場合がある。1日の中で職員が交代して保育を行っているため多数の職員への周知が必要であるが、勤務時間の問題もあり伝わりにくく関わりに迷う場面がある。 |
| 効率よく業務を推進          | B  | 時間内に業務をこなすことが難しく、時間外が多い現状がある。人材育成にかかる時間は必要である。  |

次年度への取り組み

- ・教育課程に関しては、1年をかけて見直し今のこどもの姿に合わせて修正する。
  - ・一人ひとりのこどもを大事にした保育を進めるために、職員自身が学び続け、人権に関する基本的な知識を身につけたり感性を磨いたりして、差別を許さない生き方につなげながら、人権保育や保護者啓発をすすめていく。
  - ・園内外の研修を全職員に計画的に入れ、参加していく。
  - ・効率よく業務を推進するため、仕事を精査して優先順位を考えて計画的に行い、時間外を減らしていく。
- 担当以外の業務を見渡して園内の動きを意識しながらチームで進めていく。